



S II 学校だより

No.03



小豆沢学びのエリア(志村二小・志村四小・志村二中)

校長 小室 仁一

『利他の精神と徳を積む』

皆さん、「利他(りた)の精神」、そして「徳(とく)を積む」ということを知っていますか。「利他」という言葉は、9世紀の初頭、真言宗の空海や天台宗の最澄によって日本に広められた、歴史ある仏教の教えの一つです。それは、「自分のことよりも、まず他人の幸福を願って行動する」という意味を持っています。そして仏教には、この利他の行動を重ねることを「徳を積む」とも表現します。「徳」とは、目には見えない「心の貯金」や「善い行いの貯蓄」のようなものです。誰かに褒められたいからやるのではなく、見返りを求めずに、人のため、社会のために良い行いをコツコツと積み重ねていく。その積み重なった「徳」は、やがて巡り巡って、自分自身の人生を助ける大きな力や、幸運となって返ってくると言われています。

皆さんもよく知っている、メジャーリーグで大活躍している大谷翔平選手の例を紹介しましょう。大谷選手は高校時代、夢を叶えるための「目標達成シート」を作っていました。そのシートの真ん中には「8球団からドラフト1位指名を受ける」という大きな目標があり、それを支える要素の一つとして、大谷選手は「運」という項目を掲げていました。野球の実力を磨くだけでなく、「運」を引き寄せるために何が必要か。大谷選手がシートに書いた具体的な行動、それこそが「あいさつ」「道具を大切に使う」そして「ゴミ拾い」でした。



大谷選手の高校時代の恩師は、「ゴミは他人がポイッと捨てた『運』である。だからゴミを拾うことは、他人の運を拾うことなんだ」と教えてくれたそうです。大谷選手はメジャーリーガーになった現在でも、試合中にグラウンドに落ちている小さなゴミをさりげなく拾い、自分のポケットに入れる姿がたびたびカメラに映り、世界中で絶賛されています。これこそが、誰が見ていなくても良い行いを積み重ねる、「徳を積む」という生き方の素晴らしいお手本です。

現代の科学でも、誰かのために親切な行動をとると、脳内から幸福感をもたらすホルモンが分泌され、ストレスや孤独感が軽減し、心身が非常に健康になることが分かっています。「徳を積むこと」は、決して特別なことではありません。例えば、未来の地球環境を守るために行うSDGsの取り組みや、募金活動に協力することなども、立派な実践です。

本校、志村二中の皆さんの中にも、すでに素晴らしい利他の心が溢れています。誰に言われるでもなくゴミが落ちていれば拾ってゴミ箱に捨ててくれる生徒がいます。元気な声で挨拶してくれて、学校を明るくしてくれている生徒がいます。そして何より、運動会では温かい応援があふれていました。私は、こうした皆さんの姿を見るたびに、誇らしく、本当に嬉しい気持ちになります。決して「やらされている」のではなく、自ら率先して「させていただく」という、高い意識を持って行動しているのだと思います。

他者から何かを「してもらう」のを待つ側ではなく、自ら進んで「周囲の役に立つ行動をさせていただく」側になること。その小さな一歩は、周りの人を笑顔にするだけでなく、皆さん自身の未来を豊かにし、将来のブレない自信へと繋がっていきます。ぜひ、「誰かのために、自分ができること」の一つを見つけ、皆さんの「心の貯金」を増やしてみてください。利他の精神で皆さんが心のこもった温かい行動し、徳を積んでほしいと思います。

心に残る運動会

5月30日に(土)に運動会がありました。皆さんが一生懸命に取り組んでいる姿や温かい応援をみて、志村二中の生徒は校訓そのままの「まじめ」な生徒だなと実感しました。今回の運動会で、強い絆がクラス、学年共にできたと思います。9年生のソーラン節は力強く、思いがこもる踊りで素晴らしかったです。また、各係の皆さんが朝早くからラインを引いたりテントを張ったりし、運動会を成功に導いてくれました。心より感謝します。本当に皆さんの心に残る運動会でした。



部活動夏の大会

男子ソフトテニス部が都大会出場を決めました。9年生最後の部活動の大会、どの部活も全力を出して頑張って戦いました。

